

古代ギリシアの労働観

声なき人々の労働の実態と労働観

師尾 晶子

2024/12/20

師尾

1

古代ギリシア経済史 とくに労働観をめぐる研究史とその根深い問題

- ビュヒャー・マイヤー論争：古代ギリシア・ローマ経済の性格をめぐる論争（19世紀末から20世紀初頭）
 - ビュヒャー（Karl Bücher 経済学者）奴隷制に基づく自給自足経済論（oikos経済）
 - マイヤー（Eduard Meyer 古代史学者）古代における資本主義的経済の発展
- ヴェーバーの議論の影響（Max Weber）
 - 『古代農業事情』（『国家科学事典』のための一項目、1908年執筆、1909年収録。翻訳『古代社会経済史』[1959]）における戦士共同体による消費都市としての性格の強調
- 経済人類学者ポランニーおよび古代史学者フィンリーによる呪縛の強化（1950年代～1980年代）
 - プリミティヴィスト（原始的性格の強調）・モダニスト（資本主義的近代視）論争
 - 全体としてフィンリー説の圧倒的優勢＝正統説としてのプリミティヴィストの主張
- **1990年代とくに2000年以降からはじまるパラダイム変換**
 - ケンブリッジスタンフォード学派を中心とする研究（*Cambridge Economic History of Greco-Roman World*, Cambridge 2007）。実は新史料が爆発的に増えたからではなく、根本的な理論的枠組みの転換による。新制度派経済学の影響を大きく受ける。

2024/12/20

師尾

2

パラダイム変換

- トマス・クーン (Thomas Kuhn) 『科学革命の構造』 みすず書房、1971年(中山茂訳)、2023年(青木薫訳) (原著1962年)
- 通常科学 (normal science) : 研究者が先行研究の上に普段おこなっている研究。地味だが重要。大部分の研究というのは通常科学である。
- 予想に反したこと (anomaly = 不規則) が起こることから生ずる新しいパラダイムの登場と世界観の変化 = 科学革命
- 科学革命 : 通常科学の研究の先に生まれるパラダイム・シフト (変換)、パラダイム・チェンジ (変化)。
- 古代ギリシア・ローマ経済史 : 2000年前後を境にパラダイム変換 !

2024/12/20

師尾

3

古代ギリシア (・ローマ) の労働観をめぐる言説の現状

- 通常科学を推進する研究者集団内部におけるパラダイム変換にかかわらず、巷ではまだ古い学説が跋扈し続けている。



- プリミティヴィスト・モダニスト論争以前に、アテネ民主政に批判的なプラトン、アリストテレス (そしてクセノフォン) の叙述の一部を切り取って、そこだけに依存した言説の一人歩き
 - 男性知的エリート、とくに民主政に批判的な目を向けていた知識人の言説のみをもって『古代ギリシアの労働観』とする文章の氾濫
 - 古代ギリシア・ローマの奴隷制への皮相な理解から生まれる、労働 = 奴隷労働 という誤解
 - 中産階級 = 自給自足、上流階級 = 余暇を楽しむ不在地主 ⇒ 生産性の低い社会 という誤解
 - 市民 = homo politicus (政治的人間) / homo economicus (経済的人間) ではないという対比 ⇒ 需要と供給という感覚の欠如の強調

2024/12/20

師尾

4

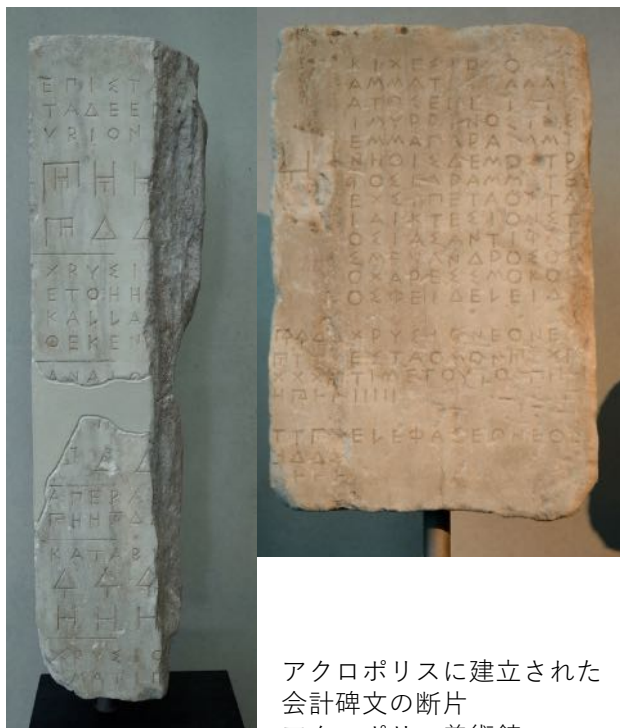
アクロポリス再建事業から見る労働の実態



2024/12/20

師尾

5



アクロポリスに建立された
会計碑文の断片
アクロポリス美術館

2024/12/20

師尾

6

【パルテノン神殿建築（前447-432年の年次会計報告）】 （前434/3年の部分）

本年度の建造監督官の収入は以下の通り。

前年度からの繰り越し	銀貨1470ドラクマ ランプサコス金貨74スタテール キュジコス金貨27スタテール1/6
アテナ女神財務官からの交付	25000ドラクマ
売却した余剰黄金の重量	98ドラクマ
その代金	1372ドラクマ
売却した余剰象牙の重量	18060ドラクマ
その代金	1305ドラクマ4 オボロス

支出

材料購入費	・・・202ドラクマ1オボロス
労賃	
採石作業者	1926ドラクマ2オボロス
破風の彫刻家たちへの賃金	16392ドラクマ
月給分	1811+ドラクマ2オボロス
今年度繰り越し	銀貨・・・ドラクマ ランプサコス金貨74スタテール キュジコス金貨27スタテール1/6

エレクトイオン



2024/12/20

師尾

7

エレクトイオン建築碑文における請負と労賃支払い記録（前408/7年） IG I³ 472, 194–218行

石工仕事について。

祭壇の側の東側の柱の溝掘りについて。

ディオネ祭壇から3番目の柱：

コイレ区在住のアメイニアデス 18ドラクマ （在留外国人）

アイスキネス 18ドラクマ

リュサニアス 18ドラクマ

アメイニアデス所有のソメネス 18ドラクマ（奴隷）

ティモクラテス 18ドラクマ

1本あたりの金額 $18 \times 5 = 90$ ドラクマ（6オボロス=1ドラクマ）

次の柱：

アロペケ区在住のシミアス 13ドラクマ

ケルドン 12ドラクマ5オボロス

シミアス所有のシンドロン 12ドラクマ5オボロス

アクシオペイテス所有のソクレス 12ドラクマ5オボロス

シミアス所有のサンニオン 12ドラクマ5オボロス

シミアス所有のエピエイケス 12ドラクマ5オボロス

シミアス所有のソサンドロス 12ドラクマ5オボロス

1本あたりの金額 $13 + 125/6 \times 6 = 90$ ドラクマ

次の柱：

ペライエウス区出身のテウゲネス 15ドラクマ （市民）

ペライエウス区出身のケフィソゲネス 15ドラクマ

キュダテナイオン区在住のテウクロス 15ドラクマ

スカンボニダイ区在住のケフィソドロス 15ドラクマ

ニコストラトス 15ドラクマ

ペライエウス区出身のテウギトン 15ドラクマ

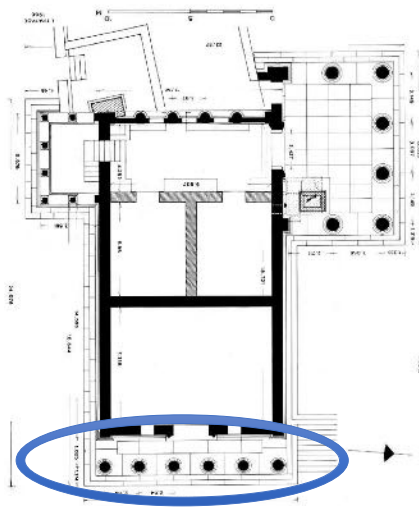
1本あたりの金額 $15 \times 6 = 90$ ドラクマ

2024/12/20

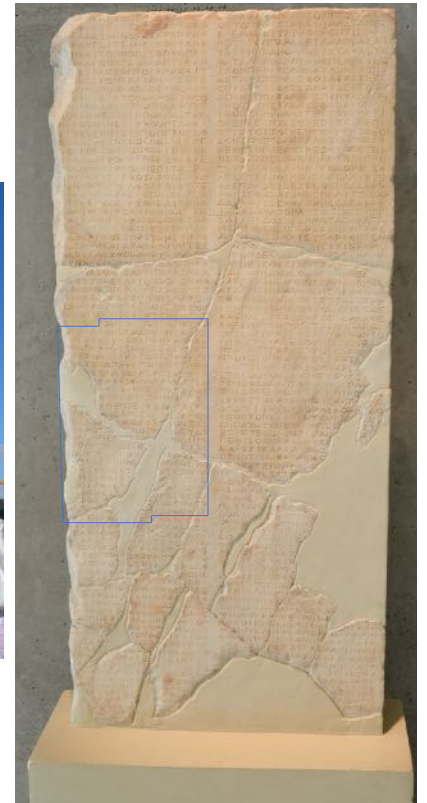
師尾

8

エレクトейオンの遺構図



東側の列柱



2024/12/20

師尾

9

20世紀初頭までには知られていた金石文群

- 市民、在留外国人、奴隷が同じ仕事＝手仕事をする人（*banausoi*）の労働蔑視の根拠



- 労働の実態を示す史料としての再評価
- 都市部に集中していた多数の職人・工人・商人の存在
- ペリクレスによる公共事業(アテネ)

「戦争のために必要なものをすべて十分にそなえたからには、その潤沢なる余剰は、次のような事業に用いられるべきである。…あらゆる事業が起こり、多様な需要が生じるゆえ、あらゆる技術を振興せしめ、あらゆる人手が求められ、ほとんどすべての市民が賃金所得者となり、かくて国は、国自身の力によって飾られ、かつ同時に養われることになるのである。…軍務に服さぬ職人大衆も——仕事をしないでただぶらぶらしている者は別にして——給与にあずかれるようにしたいと考え…」プルタルコス『英雄伝』「ペリクレス」12

2024/12/20

師尾

10

アテネ社会および奴隷制の一面を示すよく知られた古典史料 伝クセノフォン『アテナイ人の国制』1. 10

また、アテネにおいては、奴隷と在留外国人の放埒（ほうらつ）が最大であり、そこでは彼らを殴ることもできなければ、奴隷はあなたに道を譲ろうともしない。これらのことがなぜアテネ人の習慣になっているのかを述べよう。奴隷、在留外国人あるいは解放奴隷が自由人によって殴られるというのが慣習であるなら、人はアテネ人を奴隷と思い込んで、しばしば彼らを殴るだろう。アテネの庶民は奴隷や在留外国人とまったく変わらぬ衣服を着用しており、外見も同じだからである。

（クセノポン『小品集』京都大学学術出版会（松本仁助訳）を一部改変）

奉納銘文、墓碑、神託板と呪詛板からみる労働観

- 当事者の声を聞く



- 奉納銘：アルカイク期のアテネのアクロポリス 私的奉納碑，奉納物が林立
 - 少なからぬ奉納が手仕事人によっておこなわれる／成功への感謝
 - 外国人、奴隷（名前から）、女性も含まれる
 - 冶金工、縮絨工、なめし工、陶工、大工、パン屋、洗濯屋、靴職人 etc.
- 墓碑：時に仕事への言及／職業の描写
- 神託：国家・個人ともに神託伺い
 - 個人：不安、自己の進路に対する神託伺い／健康、結婚、移住、商売繁盛 etc.
- 呪詛：国家・個人ともに呪詛
 - 個人：危機回避のため⇒ターゲット：裁判の原告／商売敵／恋敵・片思いの相手／競技のライバル
- 上記史料を用いつつ、労働者の労働実態と労働観をあらためて観察・考察

手仕事人の感謝奉納



左：ブロンズの盾
「フリュギア（女性、外国人、おそらく奴隷）が私をアテナ女神に奉納した。彼女はパン屋」
（直径10.6センチ、前500年頃、アクロポリス美術館）

右：陶工の奉納碑
「…アイオスが〔アテナに10分の1を奉納した。エン〔ディオスがつく〕った」
（高さ1.22メートル、前520~510年頃、アクロポリス美術館）



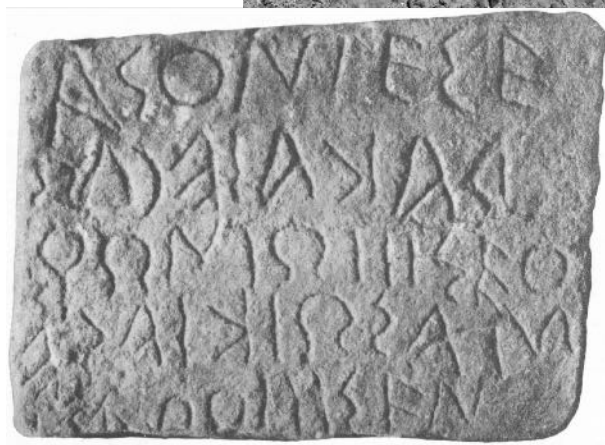
左手に杯

2024/12/20

師尾

13

墓碑



アソンは74年生きた。建物をたくさん建てた。
（39x40x25センチ、前540年頃 パロス博物館）
建材に再利用



靴職人クサンテッポスの墓碑
（高さ84センチ、前430~420年頃、アテネで発見、大英博物館）

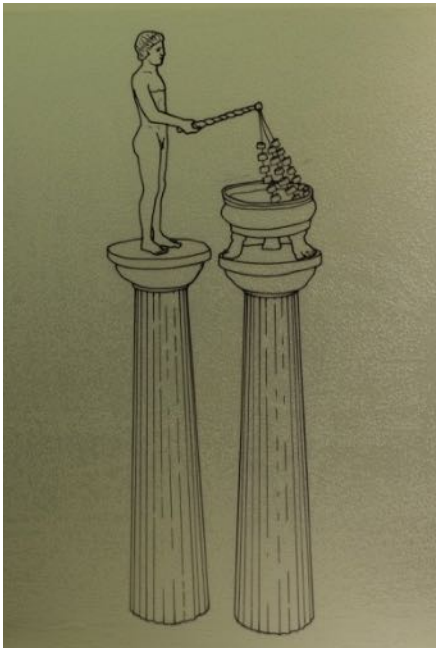
靴型を手にする死者と2人の娘

2024/12/20

師尾

14

神託伺い



2024/12/20

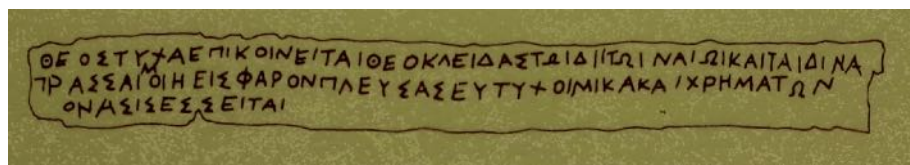


青銅製の棒の先に青銅の玉をぶら下げてもつ。
風に揺れて青銅製の鼎にぶつかって音が鳴る。
神官は、この音を解釈して、ゼウスの神託を告げる
（「はい」あるいは「いいえ」による返答）。鉛の神
託板には、通常「はい」か「いいえ」で答えられる
質問を書く。4216枚が公刊。

師尾

15

神託



Dakaris 3030A

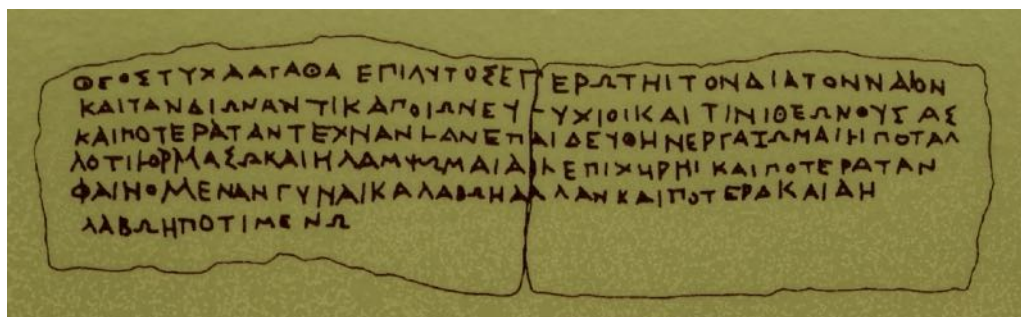
- 結婚、子供、健康、幸福、移住、職業、祈りの対象、奴隷解放、泥棒の犯人捜し、呪詛からの解放 etc.
- 前5世紀 テオクレイダスはゼウス・ナイオスとディオナにたずねる。海上交易のためにファロに行くことで金を稼げるだろうか(Dakaris 3030A)。
- 前5~4世紀 エウメドンはドドナのゼウス・ナイオスとディオナにたずねる。(今の) 仕事（テクネー）を続けるのがよりよいことだろうか(Dakaris 2246A)。
- 前4世紀半 ヘレゲティオンからやってきているアゲロコスにとって、大地を耕して身を立てることはよりよいことだろうか(Dakaris 1432)。
- 前4世紀 神。幸運を。アルキノオスはゼウス・ナイオスとディオナにおたずねする。ニケアスが工房を建設することはよりよいことだろうか(Dakaris 357A)。

2024/12/20

師尾

16

欲張りなお伺い



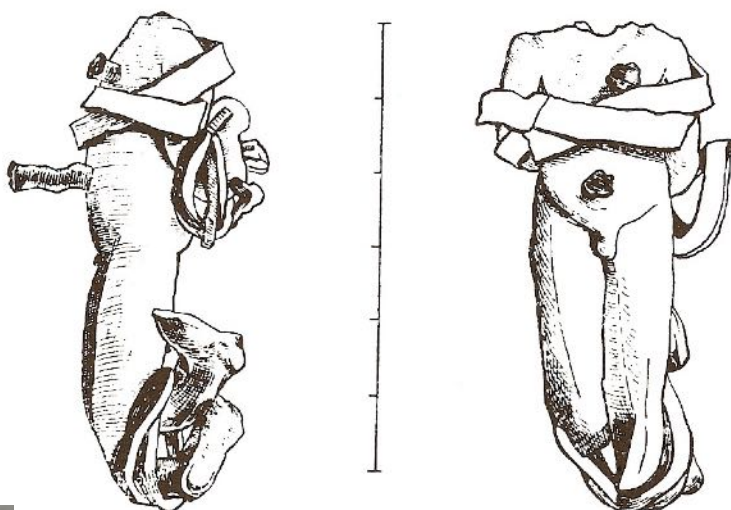
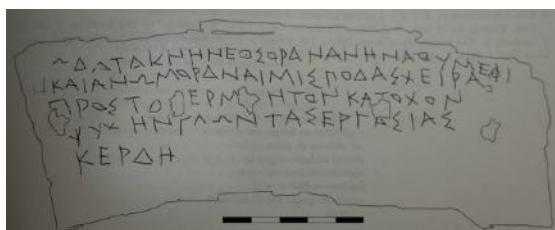
エピリュトスはゼウス・ナイオスとディオナにあらゆることについておたずねします。幸せになれるだろうか、彼が身につけた手仕事で働き続けることができるだろうか、新しい職に就いたら成功できるだろうか。さらにおたずねします。妻としてファイノメネを選ぶのがよいのか、それとも別の人がいいのか。さらに今結婚した方がよいのか、もう少し待った方がよいのか。

(前350-300年頃 Dakaris 2367)

呪詛

- 鉛の人形 前4世紀（アテネ、ケラメイコスの墓の中）
- 鉛でつくられた両手両足を縛られ釘打たれた男性像
- 同場所で発見された呪詛銘板
「・・・呪詛の神ヘルメスの面前で、足と手と魂と舌と仕事と収益を。」

(前4世紀後半 IG II³, 8, 259)



Gager, *Curse Tablets and Binding Spells from the Ancient World*, Oxford 1992, 16

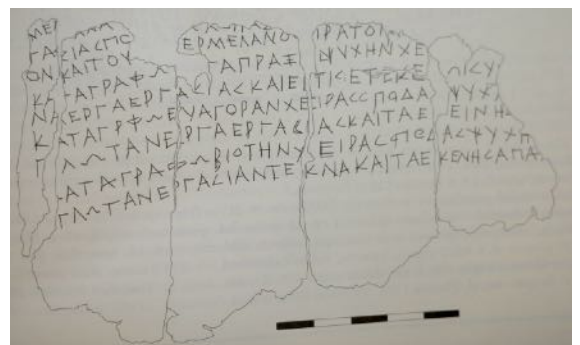
呪詛のために頼られた神々・呪詛の書き方

- 呪詛の対象：政敵、訴訟の原告、商売敵、恋愛敵、片思いの相手、競技のライバル
- 助けを得る対象
 - ヘルメス、デメテル、ペルセフォネ、ヘカテ、ゲー(ガイア) 他、地下の神々
 - 神霊・不遇の死を遂げた者
- 書き方の特徴
 - 「○○を呪詛する」呪う相手の名前の列挙
 - 「私は呪詛する」自分の名を名乗らず(呪い返しを恐れる)
 - 前4世紀頃から逆向きの文字が好まれる(文字の流れと同じ人生を期待)
 - ヘレニズム・ローマ時代からまじないじみた言葉が用いられる(特殊な文字の力への依存・魔術書の成立)

商売敵への呪詛

私はメラスと彼の商売と魂と仕事と工房と手足と舌と・・・メラスのために働く奴らを登録する。私はエウアゴラを登録する。労働と仕事と魂と手と子供と仕事と工房ともし彼女と一緒に働く者があればその者を。私はビオテを手と足と魂と舌と仕事と工房と子供たちとなんであれ彼女に属するものすべてを登録する。手と足と魂と舌と工房と子供と彼女のすべてを。

(前4世紀後半、 IG II³, 8, 251 ピレウス)



商売敵への呪詛

- 私はオフィリオンの居酒屋とオフエリオンの仕事に呪いをかける。メラントeiosの居酒屋と仕事、シュリスコスの居酒屋と仕事、ピステiosの居酒屋と仕事、ヘカタイオスの居酒屋と仕事、・・・私はこれらの奴らの仕事と居酒屋に呪いをかける。

(前4世紀前半、アッティカ IG II³, 8, 356)

- 私はアンドロクレイデスと彼の邪悪な舌、邪悪な心、邪悪な魂を呪う。私はディオニュシオスと、彼の邪悪な舌、邪悪な心、邪悪な魂、彼の工房と子供たちを呪う。

(前4世紀半、アッティカ IG II³, 8, 347A)

近隣のあらゆる居酒屋店主および関連店舗への呪詛

ヘルメスへ。

私は近所の居酒屋店主カリアスとその妻トライッタ（トラキア女の意味⇒解放奴隷か）、そしてファラクロス（禿げ男の意味⇒奴隷か）の店舗、彼らの店に隣接するアンテミオンの店舗、店主のフィロンを呪縛する。これら全ての者たちの魂、ビジネス、手、足を私は呪縛する。彼らの店舗を。

私は彼の兄弟のソシメネスを呪縛する。麻売りの彼の家内奴隷カルボスと彼らがマラタケーと呼ぶグリュカンティスとソシメネスの家内奴隷で店主のアガトンを呪縛する。これら全ての者たちの魂、仕事、生命、手と足を呪縛する。

私は私の隣人の麻職人キットスとキットスの技術、彼のビジネス、彼の魂、彼の心、キットスの舌を呪縛する。

私は泉のそばの店主マニア（女性）とエレウシスのアリストandroスの店と彼らのビジネスと心、魂、手、舌、足、心を呪縛する。私はこれらの者たち全てを墓に縛り付ける。呪縛の神ヘルメスに。

アリストandroスの家内奴隷たちを。

(前4世紀半、アッティカ
IG II³, 8, 356)



奉納銘文、神託、呪詛からわかること

- 職業を恥じない姿勢
- 女性の労働者の存在と存在の見えること
- 奴隷と思われる労働者の自立した行動
- 労働と収益へのポジティブな感覚



- 実は古典史料とも必ずしも矛盾しない実態



- 声なき人々の言葉を拾って労働観を描き直す試み

参考文献（抜粋） 概念と理論

- トマス・S・クーン『科学革命の構造』みすず書房、2023年。
- マックス・ヴェーバー『古代社会経済史』東洋経済新報社、1959年。
- カール・ポランニー『人間の経済』岩波書店、1980年。
- 伊藤貞夫「史料研究と学説史ー古代経済史の場合」『日本學士院紀要』64－2（2010）109-140頁。
- M.I. Finley, *The Ancient Economy*, London 1973.
- W. Scheidel, I. Morris, R. Saller eds., *The Cambridge Economic History of the Greco-Roman World*, Cambridge 2007.
- A. Bresson, *The Making of the Ancient Greek Economy*, Princeton 2016.

参考文献（抜粋）古代ギリシア経済・労働観

- M. Canevaro, A. Erskine, B. Gray, J. Ober, *Ancient Greek History and Contemporary Social Science*, Edinburgh 2018.
- M. Flohr, K. Bowes, *Valuing Labour in Greco-Roman Antiquity*, Leiden 2021.
- S.D. Gartland, D.W. Tandy, *Voiceless, Invisible, Countless in Ancient Greece*, Oxford 2024.
- C.J. Nederman, Men at Work: *Poesis*, Politics and Labor in Aristotle and Some Aristotelians, *Analyse & Kritik* 30 (2008) 17-31.
- E. Stewart, E. Harris, D. Lewis, *Skilled Labour and Professionalism in Ancient Greece and Rome*, Cambridge 2020.
- Workers of the World, *International Journal on Strikes and Social Conflicts*, Special Issue: *Global Labour History*, 2012.

参考文献（抜粋）奉納・呪詛板・神託

- D. Chapinal-Heras, *Experiencing Dodona*, Berlin 2021.
- J. Curbera, *Inscriptiones Graecae* II³, 8, 1, *Defixiones Atticae*, Berlin 2024.
- Σ. Δάκαρης, Ι. Βοκοτοπούλου, Α.Φ. Χριστίδης, *Τα χρηστήρια ελάσματα της Δωδώνης των ανασκαφών Δ. Ευαγγελίδη* I, II, Αθηναι 2013.
- É. Lhôte, *Les lamelles oraculaires de Dodone*, Genève 2006.
- Δωδώνη· το μαντείο των ήχων, Αθηναι 2016.
- E. Eidinow, *Oracles, Curses, & Risk among the Ancient Greeks*, Oxford 2007.
- C.A. Faraone, I. Polinskaya, *Curses in Context III: Greek Curse Tablets of the Classical and Hellenistic Periods*, Athens 2021.
- J.L. Lamont, *In Blood and Ashes*, Oxford 2023.
- A. Moroo, The Origin and Development of the Acropolis as a Place for Erecting Public Decrees, in: T. Osada ed., *The Parthenon Frieze*, Wien 2016, 31-48.
- ジョン・G・ゲイジャー『古代世界の呪詛板と呪縛呪文』京都大学学術出版会、2015年